

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第3回）議事概要

1. 日 時：平成21年10月20日（火）13：00～15：00

2. 場 所：長崎県庁中庭会議室

3. 出席者：都市再生委員会委員7名（脇田安大委員長、有馬一郎委員、伊藤滋委員、川添一巳委員、外井哲志委員、林一馬委員、平野啓子委員）

（欠席4名：梁瀬正輝委員、山口純哉委員、米倉邦彦委員、渡邊貴史委員）

都市再生委員会事務局

長崎県 副知事（藤井 健） 知事公室長（田中桂之助） 知事公室参事監（加藤 永）

まちづくり推進室長（山口洋三） まちづくり推進室（浦瀬俊郎、添川信一）

長崎市 副市長（椎木恭二） 都市計画部長（馬場敏明） 都市計画部次長（池田 宏）

まちづくり推進室長（佐藤順次郎） まちづくり推進室（田畑徳明、飯田恭祥、濱崎一弘）

4. 内 容：

（事務局）

・資料1,2（一部6,7）,3の説明。 説明内容は省略

（委員長）

・何か質問等あるか。

特になし

（事務局）

・資料4-1、4-2について説明。 説明内容は省略

（委員）

・キャッチフレーズの国際ゲートウェイを国際平和に修正し、目標の順番は国際ゲートウェイを最後にしてある。

・整備方針も5つから8つに増やし、ハード中心からソフト路線に変更しており、すっきりとなった印象。

（委員）

・民主党政権となってこれからどうなるか見えてこない。

・そういったなかで今までの意見を集約してよくまとめられたということが大きいと思う。

・新幹線、県庁移転、オリンピックなど、どうなっていくのだろうか。

（事務局）

・新幹線については補正予算で10億円ついてはいたが、凍結されていない。来年度概算要求も総額は例年どおり。

・未着工区間は白紙の取り扱いだが、駄目だとは言っていない。

・新政権も新幹線の必要性は理解いただいている。

（委員）

・新幹線が非常に重きをなしており、来るか来ないかで私達の議論に大きな影響があるので心配している。

・よくまとめてあるが、ひとつひとつ実行することが難しい。民の力が必要。民と官の合わせ方が大切。

（委員）

・目標の「平和・文化都市の魅力の強化」は大胆だと思う。平和をこれだけ表に出して良いのか。整備方針の中に掲げるのはいいのかなと思う。

・新しい目標として成立するのか。ソフト面はわかるが、まちが向かっていけるほどの素地や力があるのか。

・都市構造の改変をどうするのかと、都市の魅力をどのように磨いていくかは網羅されている。

・目標の掲げ方について、1番目に「都市魅力の強化」とし、中の項目に平和というのを入れるのかどうか、2番目に「回遊機能の強化」、3番目に「ゲートウェイ機能」という、分かり易いものにしたらどうか。

（委員）

・「平和都市の魅力磨き、世界に平和を発信する」が1番目にあるのに、検討プロジェクトが白紙である。

・平和に対する長崎のハードの部分はお粗末。全てのものをなくしてきた経緯があるため、それをどう取り組んでいくかを検討プロジェクトに入れるべき。

・平和を継承することについての公的、私的な教育をどうするのか入れるべき。

・市民・県民に伝える場合には、市民・県民の役割を明記したほうが分かり易い。

（委員）

・観光と一般の住民は分けたほうが良いのではないかと。観光を重点的にやりながら一般の住民にも重なるものを作っていきのが良い。

・観光客が安心してできるだけ沢山廻れるように、観光客の行動に即したネットワークを考えないといけない。

- ・公共交通の料金を一日何を乗り継いでも定額とすることはできないか？
- ・観光ルートと電車のルートが合っているとかが解決策、対応策になる。

(委員)

- ・クルーザーがこれから相当増えるだろうが1泊で次にいく。長崎の何処で楽しませるのか、限定して戦略的にまちづくりをしなければならない。
- ・リスボンでは、狭い谷あいのなかに、飯を食わせて、観光させて大人の夜を楽しむ場所を造っており、最後に丘の上の修道院からまちを見せて綺麗だろうという一日が出来ている。
- ・ゾーン区分ではまちなみ整備なんかをもう少しシャープに、場所は小さくても良いから入れてはどうか。
- ・函館、小樽、港ではないけれど「おかげ横丁」は歩くと午前中3~4時間つぶれる。
- ・観光戦略は一泊なのでそれにあった記述が必要。
- ・中国の東北地方には日本人に好意をもっている人が多い。

(委員)

- ・タイトルとしては国際ゲートウェイより平和の方がずっといいが、平和もどこまでの覚悟があるのか。
- ・観光が主要産業であると書いてあるが、せいぜい5%ぐらいしかない。波及効果も含めて1割弱。
- ・長崎の特徴として医学のウェイトが非常に高い。医者への地銀の貸し出し残高は他県より2倍位多い。
- ・都心にマンションが建ち、都市景観が悪化している。課題に是非入れてほしい。景観改善をやるべき。
- ・「長崎は観光のフロントランナーであれ」と認識。「さるく」で長崎が日本の体験型観光をリードしている。
- ・「おかげ横丁」で革新的なのは、江戸時代のまちなみだけでなく江戸時代の生活の様子を再現したこと。
- ・長崎の石碑では、当時の文化は分からない。おかげ横丁は芝居小屋があって当時の生活感が分かる。
- ・長崎で夜飲みに行くのはいいが、女性達は銅座にいても仕方がない。甘いものを食べたあとはライブ的なものを見られると夜が楽しい。
- ・メニューは優先度とか目玉になるものをつくる必要がある。県と市がやるもの、市が単独でやるものとか、民間が主にやるもの等、カテゴリの仕分けをしたほうが良い。

(事務局)

- ・定額制は2006年に実験的にバス、電車、観光施設を組み込んでやったが、継続は困難であった。観光客のアクティビティからみると重要と感じており、今後探っていくことも必要。
- ・内容については市が考えるべき課題が多い。
- ・平和の発信、被爆都市としての使命をどのように果たしていくのかは、市としてもある意味、一步を踏み出せずに留まっていた。最終的な資料としては全体計画のなかで収まるように検討し、県と相談していく。
- ・プライオリティが重要。行政がやるもの、民間がやるものなど、行動パターンに着目しての整理が必要。
- ・景観については実施プロジェクトとして出していく必要がある。

(事務局)

- ・「観光」と言う言葉を長崎では単にツーリズムでなく、本来の意味に戻りましょうと言うこと。
- ・テーマパークではなく、オリジナルの観光の意味を発信できる都市に戻るべき。

(委員)

- ・クルーズは、現状は朝早くに入って夕方6時くらいに出て行ってしまいが一泊させて、市内で食べてもらう。
- ・船中で長崎の見所を説明したり、資料を船においてもらうような工夫ができるのでは。

(事務局)

- ・フライ&クルーズで、長崎から発着できるようなCIQ(入国手続)の体制ができていないが、今年度末に国際ターミナルを整備することとしている。
- ・来年上海万博があり、相当上海との間でクルーズが増えるだろう。上海航路を定期航路とするわけにはいかならないと思うが、事実上、上海航路を復活するのに相応しい効果を目指していこうと考えている。
- ・中国クルーズ客船が入ってきたときは、中国国旗が並び、ウォンを使えるようにし、お金を落としてもらうプロジェクトを県・市・地元の商店街で協力してやった。それを活用したらどういう形になるのか、こういう風になるという形にプロジェクトを再編・修正していかなければならない。

(委員)

- ・タイトルについてだが、平和が重いかなという感じと、これまで逃げていたのかなという感じもあり、自分を叱咤激励する意味で入れておいたほうが良いと感じている。

(委員)

- ・平和は、県・市に覚悟というものがあ、市民も含めて覚悟を決めた上で入れて欲しい。市民・県民に対する

覚悟の確認みたいなものも素案に出てくればよいのでは。

(委員長)

- ・この議論は議会での議論やパブリックコメントを実施されると思うので、とりあえず平和を入れた形でいき、その上で皆さんの声を聞いて、修正することもありえるという感じで如何か。

(委員)

- ・一番目に国際平和とあるが、それほど言えるものがあるか心配。広島は積み重ねをされてこられたが、長崎の場合はある意味でそれを消し去ってきた。よっぽどの新しいプロジェクトがあれば別だが、実際には観光とか再開発とかが主で、そぐわないと感じる。
- ・ヨーロッパでは、ナチスにやられてきた街のほうのはるかに実践されているが、長崎は弱いと感じる。パリのシテ島の資料館にはナチスドイツに迫害された人達のモニュメントがあるが、第二次大戦後で最高のモニュメントだと思う。そういうものを長崎は造ってきたか、あるいは造ろうとしているのか。
- ・観光は、住んでいる人達が心地よく快適に暮らしている中に、「自分も参加させてください」というのが原点。

(委員長)

- ・平和の案件については事務局で意見を受けて再整理。
- ・この件に関してはペンディングにする。

(事務局)

- ・資料5の区域別整備方針の説明。説明内容は省略

(委員)

- ・区分けで何処から何処までがなに町か分かりにくい。分かりやすくして欲しい。
- ・タクシーでの修学旅行を年間80校位やっている。事前に長崎の歴史を勉強し、自分の行きたい場所へ行きたい人同士が乗り合いをするもの。いっぺんにタクシーが100台くらい並んで観光する。
- ・長崎の歴史を勉強する修学旅行に変わりつつあり、この認識を持って資料やパンフレットを作ってほしい。

(委員)

- ・まちなか周辺区域の中で、商業機能はアフターコンベンションの場となっているが、コンベンションシティとしての長崎市の役割も重要なファクターだ。やはり5000人規模のコンベンションを作っていただき、長崎に来てそこで遊んでいただくことを考えていただければ。

(委員)

- ・浦上駅と長崎駅の間くらいまでは浦上周辺区域に含めてもいい。将来的には長崎港を中心に見据えるのであれば、こういう考えもあるのでは。
- ・まちなか周辺地域という言葉はなんか変だ。そこもまちなかだ。

(委員)

- ・旧市街地の意味だと考える。長崎外の人から見るとなかなかイメージが沸きづらい。

(委員)

- ・資料4で説明いただいた様々な整備方針は、プロジェクトのゾーニングしたものの中に割り振っていくということか。ゾーニングすることと、整備方針とプロジェクトのつながりが分からない。
- ・長崎の町は色々な歴史が輻輳していて、宗教の問題、被爆の問題、港から開けたという問題、それぞれが文化を抱えていることも含めて、それぞれの地域にそれぞれの重みがあるわけである。
- ・例えば、中国人が住んでいた唐人屋敷にしても、そこは長崎の歴史の大きな拠点になると思うが、ある意味では平和に関すること。被爆だけが平和ではない。長崎の歴史を辿っていく事によって平和と向き合っていくという作業が必要だ。

(委員長)

- ・その辺りは事務局のほうで再整理。地域別計画を作るわけではない。分かりやすさを追求して欲しい。

(事務局)

- ・再整理する。